写真は、三池主婦会の定期総会。ここで、これから1年間の、主婦会活動の方針がきまつた。

あらたな主婦会運動の前進を

三池主婦会定期総会ひらく

三池主婦会は、さる八月三十日労働福祉会館において、第二十八回の定期総会をひらきました。

島会長の挨拶、来賓の挨拶などがあり、経過報告、決算、監査報告が行なわれたあと、議事に入りました。

運動方針では、①生活を守る闘い。②生命や健康を守る闘い。③統一活動。④子供を守る運動。⑤組織強化。⑥働く婦人の問題。⑦平和を守る運動。⑧年間行事。などが提案され、討議のあと承認されました。

主婦会の活動も、さまざまな困難がありますが、みんなで論議し励ましあい、すべての婦人と連帯して運動を進めようと訴えています。

×

新年度の役員（敬称略）

会長　島文枝（西ブロック）
事務局長　平川弘子（東〃）
会計　東敬子（東〃）
組織部長　斉藤清子（三川〃）
教宣部長　藤田美代子（四山〃）
福祉部長　片山サト子（西〃）
監査　塚本栄子（三川〃）
監査　合瀬幸江（四山〃）

時も経っていませんが現在会員二十八人、碁の打ち手、そして初心者の参加を呼びかけています。（上の写真を参照のこと）

荒尾地評主催 囲碁・将棋大会のお知らせ

日時　九月二十七日（日）午後九時三十分開会
場所　荒尾労働金庫二階
方法　いずれも個人戦
申込み　九月二十二日までに厚生部の松岡部長か組合事務所または荒地評まで。
賞　優勝、準優勝、三位まで。なお参加賞もあります。

定年記念の囲碁大会開く

三池労組囲碁愛好会（会長・高木哲雄さん）では、九月六日、竹金蔵さん（四山）の定年退職を記念して囲碁大会を開きました。

当日参加したのは竹さんをはじめ十四人。A・B・C三組に分れてなごやかに行なわれました。

成績は次の通り

A組優勝　久保田睦男さん
B組優勝　沖克太郎さん
C組優勝　浦川秀夫さん

なお同会は、発足してあまり日

▼…先に、三池労組のカメラ愛好者が作品をもち寄り、組合会議室で写真展示会を開いた。今後の精進を期待しています。

右は、写真展示会

坑内馬に日の目を

NHKの「話題の窓」に

武松さん

『坑内に降りたら最後、日差しを浴びることもなく、使役のはてに死んでいった坑内馬たちの供養塔はどこにもない。このままでいいのか』――こう語る武松輝男さん（本所）は、ようやく『坑内馬の呪詛』（仮題）を書きあげ、ちかく出版されます。

この出版とともに、坑内馬が埋葬されたといわれる旧宮原竪坑付近に、供養塔を建立するよびかけを行なっていますが、すでに各紙で報道され、反響も大きく、問い合せなどが続いており、さる八日NHKテレビ「話題の窓」でとりあげられ、放映されたもの。

武松さんは『坑内馬は使い捨で、坑内で酷使された囚人労働者と同じく資本の論理の犠牲になった』と、三池炭鉱裏面史の追究に意欲を燃やしています。

芸園

植え替えについて

今がその最適期です

くなって花が小さくなったり、少なくなったり、または株をふやしたいとき株分けをしますが、根を傷つけないように掘り取り、あまり小さく分けず芽を五～六芽つけて割る。今まで植えてあった場所以外に植えるとか、または新しい土を入れ替えて植えるなど、病虫害から守ってやること。

春、植え込んだ植木や盆栽でも乾燥や暑さで葉色もあせ、枝の伸びも悪く枯死寸前のような状態のものがあれば、思いきって植え替える。水切れと思い水をやりすぎて根ぐされをおこしたり、また肥料切れと思い肥料を与えすぎて根ぐされをおこすなどの害があります。思いきって引き抜き、根の状態をよく見てくされ根は切り込み新しい用土で植え替え、半日かげで培養します。

秋の施肥は夏ばての回復と成長ということでなく、根や枝葉を充実させるために必要です。したがって窒素肥料をひかえ、リン酸やカリ肥料を主に施します。

（田上　勇・記）

肥料の必要度は？

樹種	要求度	時期
松	中	9～10月頃。
錦松	中	同上。燐酸、カリを多目に。
杉	多	9月。
杜松	少	9月重点。
梅	多	9月下旬～10月上旬。
ボケ	中	秋植え後2週間して。
サツキ・ツツジ	少	三要素をバランスよく。
フジ	中	9月。
モミジ・カエデ	中	同上。

注―上は今からのことです。

教育

朝夕は大分しのぎやすくなりましたが、日中の暑さはまだまだです。

先日は、お便りありがとうございました。お変わりなくお過ごしのようで何よりです。

子どもさん達はすっかり成長されて、あなたももう、おばあちゃんになられたことと思います。

私方も二女が高校生、長女が十九歳になり、私がちょうど二十数年前に、あなたと一緒に通勤していたトシ頃になりました。

あの頃はよく映画を見に行きましたね。とくに土曜日が楽しみで、お花のけいこをしたり映画を見たり、季節のよい時期には、菊池川の川べりや近くの公園に行ったり。そしてよくおしゃべりをしたり、笑ったりしたものでした。

通勤に利用していたあの鹿本鉄道も、水害のために線路がだめになり、それに、ものすごい勢いで普及してきた自動車の影響もあって、ついには廃線。なつかしい、あの駅の待合室は、今は自動車学校の一部になっているほどです。

夢にも思わなかったのに、その後私は人並みに自動車の免許を取り、勤め先まで車で通っています。テレビを見ながら食事をし、用件は電話で済ませ、思えば手紙を書くこともほとんどなくなってしまいました。ほんとに久しぶりに、あなたへこの手紙を書いています。不思議にむかしのことが思い出されるのです。

今は、たまに縫い物をしようと思っても、早や糸が針の目になかなか通らなくなりました。老眼鏡のお世話になるのもすでに秒読みの境にはいっていますが、あなたはいかがですか。

ところで、お母さんと妹さんはお元気ですか。

私の父は元気です。七十歳を過ぎたのに、昔と変わらず、ちょっとの暇でもあれば竹細工。それにキジやチャボ、あひる、うさぎなど、「忙しい、忙しい」といいながら、その飼育を楽しんでいます。

弟や妹たちもそれぞれ一人まえの人間となり、盆・正月にはみんなが父のもとに集まって、にぎやかに過ごしています。

貴女とは、もうずいぶん長いことお会いしていませんね。こんどご郷里に帰られたときは、ぜひご連絡ください。お会いできる日を楽しみに待っています。

末筆ですが、ご主人様にくれぐれもよろしくお伝えください。皆様のご多幸を心から念じつつ、これにて失礼いたします。

遥るかな地の友へ

外来　柳本静代